

令和2年度 事業報告書

【令和2年4月1日から令和3年3月31日まで】

社会福祉法人 鶯鳴会

1. 事業所の名称 共同生活援助 KoBo れもんぐらす

①すとりべりーホーム

②おにぎりホーム

2. 所在地 ①三重県名張市東田原625-190

②三重県名張市西田原391-6

3. 職員体制

人員	従業者	世話人	常勤・専従	1名
			非常勤・専従	5名
		生活支援員	常勤・専従	1名
			非常勤・専従	7名
		夜間支援員※1	非常勤・専従	7名
	サービス管理責任者	非常勤・専従	1名	
管理者	常勤・兼務		1名	

※1. 夜間支援員については、法人職員が時間外で対応

4. 利用定員 ①すとりべりーホーム 7名

②おにぎりホーム 6名 合計13名（令和2年4月1日現在）

※おにぎりホーム：6部屋中、1部屋は「体験利用」用

5. 利用者数 ①すとりべりーホーム 7名

②おにぎりホーム 5名 合計12名（令和3年3月31日現在）

ホーム名	障害支援区分					
	2	3	4	5	6	計
すとりべりー	0名	1名	2名	3名	1名	7名
おにぎり	0名	1名	1名	0名	3名	5名

6. 年間利用状況

年度	開所日数※	利用者数	平均利用者数	利用率
令和2年度	365日	4274名	11.7名	97.6%

※開所日は365日が原則

7. 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用者数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
利用延べ人数	354	367	349	368	367	356	367	357	356	332	333	368	4274
利用平均者数※1	11.8	11.8	11.6	11.8	11.8	11.8	11.8	11.9	11.4	10.7	11.8	11.8	11.7
体験※2 利用日数	3	0	0	3	9	7	10	8	6	3	7	7	63
新規契約者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
契約終了者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1.小数点第2位で切り捨て

※2.体験入居した利用者（計3名）

8. サービス内容

①日常生活の援助

利用者の状態に応じ、利用者が意欲的に日々の生活を送ることができるように、調理や洗濯、掃除などを共同で行い、良好な人間関係に基づく家庭的な環境を作り出せるよう利用者の人格に十分配慮しながら支援を行った。また利用者からの相談事やトラブルがあった際は、サービス管理責任者が利用者の声に耳を傾け、その後、管理者、関わった職員を含め利用者の立場に立った事例検討会を開き、支援の振り返りの場を設け、支援技術の向上に努めてきた。

②金銭管理の援助

利用者12名中4名の金銭管理を行っており、現金を取り扱う人と、記帳する人を分ける等、複数で管理を行った。また、預金の金銭出納確認については3か月に一度の頻度で利用者や保護者に報告し確認をとった。（確認書あり）

③余暇活動の援助

入居者全員の方が余暇の充実を図るため、順番に移動支援サービスを利用して週末を過ごしていた。ホーム単独での外出や外食については、新型コロナウイルスの影響により実現不可能となったが、クリスマスやハロウィンなどのイベント時には利用者の要望を聞いた上で食事を提供することで多くの利用者から喜びの声を聞くことができた。

9. 健康管理

年1回の定期健診や必要な予防接種（インフルエンザ）については、同法人内の多機能型事業所を利用している入居者が大多数を占めていることから、その事業所にて行った。

定期通院や、突発的な発熱や体調不良に対しては生活支援員等が対応した。

新型コロナウイルス感染予防対策については、手洗い、うがい、手指消毒、朝夕の検温、共有スペースでのマスク着用、定期的な換気、食事を二部制にするなど様々な取り組みを行ってきた。

10. 防災関係

消防訓練（年2回）、自主防災訓練（地震）については二日連続で行い、一日目に出た課題を整理したうえで二日目に臨むという形をとった。今回は、両ホームの利用者も一緒に参加し

での訓練だったため、地震発生時の職員の行動についてはより具体的に行うことができ令和元年度に行政から受けた指導内容（※1）に関してはクリアした。

また、消防用設備等点検（消防法第17条の3の3）について、定期（R2.9月、R3.3月）に点検し、その結果を消防長又は消防署長に報告（R3.3月）した。

※1 令和2年2月、県の監査にて「非常災害対策について、平成30年度は災害等対策訓練が実施されていませんでした。（令和元年度は実施済み）これからは、定期的な訓練の実施と実施後の評価・分析を行っていただくようお願いいたします。」との指導があった。

1.1. 総括

平成31年3月に事業所内で虐待事案が発生したことにより令和元年7月から現在も監査中である。「適正な運営を図ること」を大前提に職員一丸となり事業運営を行ってきた。新体制になり、利用者個々がその人らしく安心して暮らせるホームを目指し、まずは人員配置の変更を行った。また、利用者がいつでもどこでも「心の声」を表に出せるよう苦情解決のための体制を見える化するためポスターを掲示し、利用者が安心して暮らせるよう配慮してきた。利用者との信頼関係を築くには、まだまだ時間を要することが予想されるが、つねに利用者の立場に立って利用者の思いに寄り添い、「自分らしく」生活できるよう個別支援計画に再度反映させ支援の統一を図っていかなければならない。今後も支援技術の向上を図るため、事例検討を繰り返し行い「自分で考える力」を身につけていく予定である。